

銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 30 年 1 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

1 月	4 日	～	850 円/Kg
1 月	10 日	～	840 円/Kg
1 月	15 日	～	830 円/Kg
1 月	22 日	～	820 円/kg
1 月	24 日	～	800 円/kg
1 月	29 日	～	810 円/kg

平成 30 年 1 月度は平均で 825.70 円/kg となり、前月比 15.70 円/kg の値上りとなりました。

海外銅価の動き

- ① 1 月の LME 銅相場 1/1 ～ 1/30 (安値ドル 6,905.00～7,202.50 高値ドル)
1 月の NYC 銅相場 1/1 ～ 1/30 (安値セント 308.95～325.60 高値セント)

2018 年 1 月度の LME 現物は、1/2 \$7,181.00 でスタート。昨年末の中国経済への回復期待による高値が持ち越されたような形で始まった。しかしながら 12 月の米雇用統計では市場予想を下回る内容であった事や、米長期金利の上昇を受けたドル高の影響による利食い売りから徐々に下げへ転じた。その後、欧州の金融政策が正常化に向かうとの見方が広がったことや、このところ新興国通過に対してもドルが売られている状況などからドル安へと繋がり、商品全般への資金が流入。\$7,000 を挟む中で在庫が大きく増加するなど相場の動きは激しいが、需要面での追い風などの要因により底堅い銅相場となっている。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2017 年 12 月 資料より (単位/千トン)

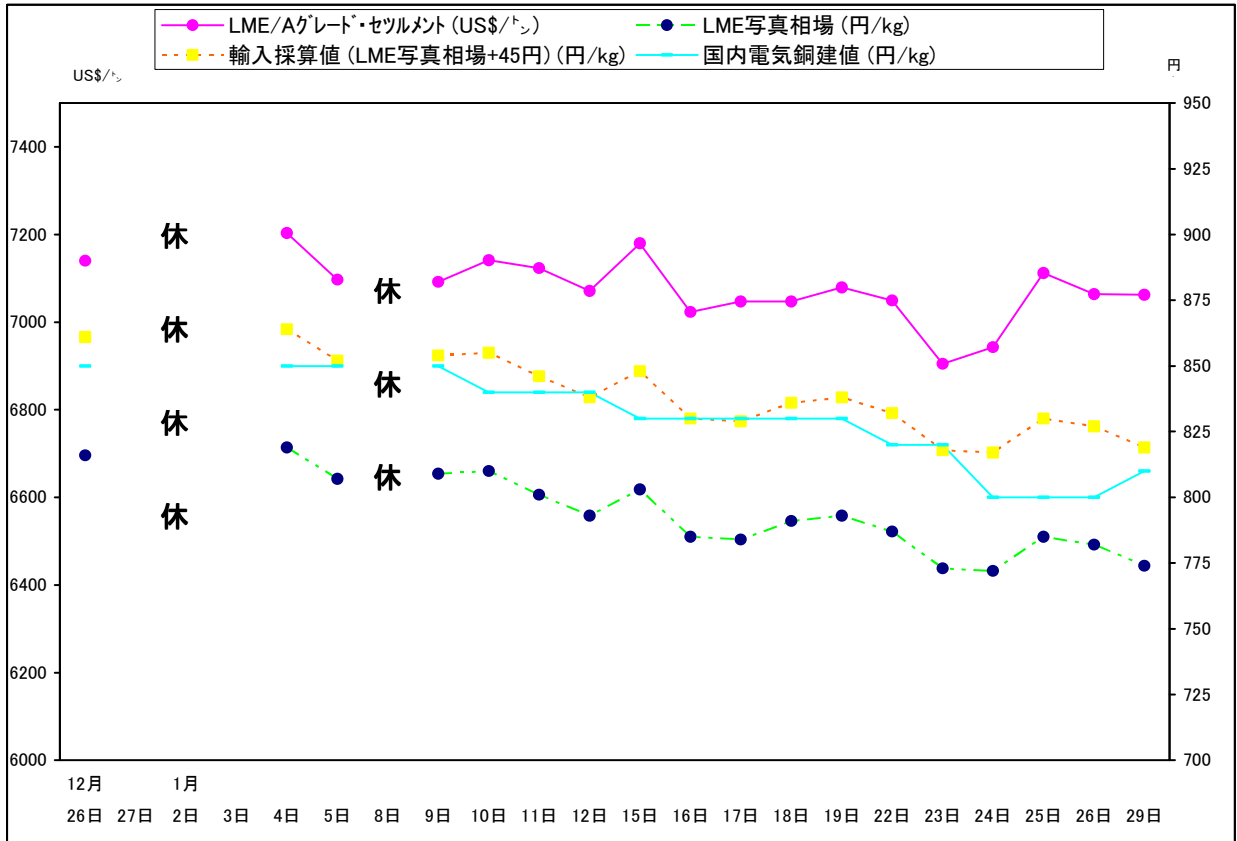
	2015年 実績	2016年 実績	前年比	2017年 予想	前年比	2018年 予想	前年比
全世界地金生産	21,959	22,758	+3.6%	22,881	+0.5%	23,314	+1.9%
全世界地金消費	21,933	22,523	+2.7%	22,975	+2.0%	23,414	+1.6%
全世界需給バランス	+26	+235		-94		-100	

先行き短期見通

国内銅価

1 月度の国内建値は 2 日 850 円/kg でスタート。大きな動きがない経済状況の中で利ザヤ売りでドル安を背景とし、為替の影響による価格変動となった。1/10 に 840 円、15 日 830 円、22 日 820 円と下がり、24 日 800 円、29 日 810 円と下げた。ただ当面、銅への好材料が相場を支えて行く気配である。1/30 付 LME \$7,049.00、26 日付 為替 (TTS) 1USD=110.06 円で日本円換算計算値 776 円/kg。2018 年 2 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、820 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



LME	7140	休	7097	7092	7123	7180	7047	7079	6905	7112	7062
入電	7140	休	7203	休	7141	7071	7023	7047	7049	6943	7064
US\$	114.4	休	113.8	114.1	112.5	111.9	111.3	112.1	111.9	110.5	109.7
TTS	114.4	休	113.7	休	113.4	112.2	111.8	112.3	111.7	111.2	110.8

◎ 平成30年1月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 1月 4日 ~ 427 円/kg
- 1月 11日 ~ 424 円/kg
- 1月 16日 ~ 436 円/kg
- 1月 23日 ~ 430 円/kg

平均430.00円/kg

平成30年1月は上記の通りで前月比 21.10円/kgの値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	1月	347.30	円/kg	(前月比+	0.60	円/kg)
電気錫(相対)	1月	3,700.00	円/kg	(前月比+	90.00	円/kg)
ニッケル(溶解用)	1月中価格	1,550.00	円/kg	～	1,600.00	円/kg
銀	12月平均	59,970.00	円/kg	(前月比-	3,120.00	円/kg)
	1月30日	61,460.00	円/kg			
金	12月平均	4,607.78	円/g	(前月比-	73.32	円/g)
	1月30日	4,715.00	円/g			

◎ 伸銅品関係

平成29年12月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		11月度実績	12月度速報	前月比	前年12月度実績	前年同月比
銅	板	1,280	1,217	-4.9%	1,331	-8.6%
	条	23,397	21,930	-6.3%	20,630	6.3%
	管	9,689	9,201	-5.0%	8,878	3.6%
	棒	2,326	2,271	-2.4%	2,076	9.4%
	線	289	286	-1.0%	283	1.1%
黄銅	板	604	538	-10.9%	477	12.8%
	条	9,808	8,789	-10.4%	7,688	14.3%
	管	728	603	-17.2%	576	4.7%
	棒	16,286	15,253	-6.3%	15,913	-4.1%
	線	2,547	2,295	-9.9%	2,668	-14.0%
青銅	板	2,912	2,738	-6.0%	2,531	8.2%
	条					
	棒	245	246	0.4%	279	-11.8%
	線	70	64	-8.6%	73	-12.3%
洋白・その他	板	509	471	-7.5%	410	14.9%
	条					
	棒	36	41	13.9%	47	-12.8%
	線	423	464	9.7%	474	-2.1%
合計		71,149	66,407	-6.7%	64,334	3.2%

12月の伸銅品生産速報は、66,407トンで前月比マイナス4,742トン、前年同月比プラス3.2%となり、前年同月比が4ヶ月連続でプラスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の10月分実績及び11月分推定によれば、10月分の総計は6万2千641tで前年同月比9.9%増と二桁近く伸長し、2ヶ月連続で6万tを超えた。電気機械と建設電販が前年同月比で9月分のマイナスからプラスに転じ、電力以外の6部門が増加となった。

一方、11月分の総計は6万3千200tで前年同月比1.0%増になる見通し。通信と電気機械とその他内需の3部門が前年同月比を割込むが、建販が3万t強を確保し自動車为好調な上、輸出も健闘した。結果、総計は3ヶ月連続で6万t超となり、今後、東京五輪に向け建設需要等が本格的に動きそうな情勢になってきた。

10月分の7部門別出荷をみると、前年同月比でプラスグループは6部門。通信は需要の山場に差し掛かったほか、一部同軸が健闘し同5.9%増で2ヶ月連続の増加。電気機械はニッチだが、医療用分野やFA/ロボットケーブル分野などが健闘し数字を押し上げ、同6.1%の増加に転じた。自動車は生産台数が増加していることから18ヶ月連続で増え、同15.3%増と二桁増を確保。建設電販は五輪需要触発なのか同10.9%増。その他内需も五輪絡みや民間の設備投資が上向き8.3%増加。輸出は電力ケーブルのスポット需要で同73.5%の増。電力は国内の張替え需要が本格的に動かず同8.5%減と14ヶ月連続で低下となった。

2017年10月分(実績)・2017年11月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	10月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	11月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	10月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	985	7.7	5.9	900	▼ 8.6	▼ 15.3	1,676	(15.9)	30.6
電 力	(1,508) 4,582	(▼2.5) 1.9	(▼2.1) ▼ 8.5	(1,200) 4,800	(▼20.4) 4.8	(▼12.0) 2.8	1,194 5,005	(4.1) 7.9	(20.6) ▼ 8.0
電 気 機 械	(451) 13,283	(13.3) 4.6	(7.1) 6.1	13,400	0.9	▼ 1.2	423 17,615	(13.1) 5.8	(10.7) 12.6
自 動 車	(99) 7,342	(▼ 4.8) ▼ 1.5	(30.3) 15.3	7,000	▼ 4.7	2.1	417 32,386	(57.4) ▼ 1.1	(39.5) 11.7
建 設・電 販	(79) 29,647	(71.7) 9.1	(464.3) 10.9	30,400	2.5	0.3	64 34,217	(137.0) 9.3	(255.6) 28.2
その他内需	(43) 4,481	(▼50.0) ▼ 2.8	(▼15.7) 8.5	(600) 4,800	(▼10.7) 7.1	(▼0.8) 2.0	41 6,975	(▼40.0) ▼ 2.6	(▼16.3) 27.3
内 需 計	(2,180) 60,320	(0.0) 5.2	(3.7) 8.3	(1,800) 61,300	(▼17.4) 1.6	(▼8.6) ▼ 0.1	2,140 97,874	(13.7) 4.2	(23.1) 17.2
輸 出	(1) 2,321	(▼98.7) ▼ 18.5	(▼96.7) 73.5	(300) 1,900	(29900.0) ▼ 18.1	(▼20.4) 57.4	8 6,491	(▼77.8) ▼ 38.0	(▼63.6) 12.1
合 計	(2,181) 62,641	(▼3.5) 4.1	(2.3) 9.9	(2,100) 63,200	(▼3.7) 0.9	(▼10.5) 1.0	2,147 104,365	(11.9) ▼ 0.1	(22.0) 16.8
心線販売	(1,002) 31,759	(▼0.6) 2.8	(2.2) 3.6	(1,300) 32,100	(29.7) 1.1	(20.5) ▼ 0.6	265 23,731	(1.5) 6.9	(17.3) 42.3

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2017年10月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	4,446	4.6	15.5	3,886	8.2	51.4	
巻線	12,102	4.3	7.6	12,112	6.8	18.2	
機器用電線	3,779	6.2	15.0	10,763	6.0	15.1	
通信用電線・ケーブル	1,696	7.5	9.4	3,691	8.7	20.8	
電力用電線・ケーブル	22,593	2.7	10.3	23,166	▼ 9.7	24.5	
被覆線	12,122	7.7	7.5	16,696	7.0	18.6	
輸送用電線	59,303	▼ 0.8	10.8	34,050	▼ 1.8	8.4	
銅電線計	62,641	4.1	9.9	104,365	▼ 0.1	16.8	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	75	5.6	▼ 10.7	256	1.2	▼ 8.6
	電力用電線・ケーブル、被覆線	3,027	▼ 0.9	6.4	3,563	2.6	23.0
計	3,107	▼ 0.9	5.9	3,840	2.0	20.2	
アルミ電線計	2,181	▼ 3.5	2.3	2,147	11.9	22.0	
光製品	4,160,134	▼ 7.7	3.0	21,558	▼ 10.3	▼ 4.8	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	4,324	▼ 4.4	3.6	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場の第1週は、年始に発表された中国PMIが堅調だったことや中国における生産量制限が順調に実施されていることから底堅い推移。欧州消費者物価指数が前年同月比+1.4%と前月の+1.5%から減速したことでドル高となる。李克強中国首相が、17年の中国GDP成長率が6.9%前後となる見通しと発言。政府目標の6.5%を超える堅調な経済成長を達成している模様で原材料価格にも上昇材料となる。第2週は、ECB製作委員会メンバーがハト派的な発言をしたことや、ドイツの大連立政党樹立に対して否定的な噂が広まったことなどでユーロドル高が進行。週末に発表された中国GDPが先日の李克強首相の発言どおり、+6.9%と16年の+6.7%から加速した。しかし、12月の中国におけるアルミ生産高は前月比+15%となったことを受けSHFEアルミは続落。第3週、中国河南省で大気汚染の警戒レベルが最高レベルに引き上げられたと報じられ、アルミ生産に歯止めがかかるとの期待感が高まる米財務長官がドル安を容認する発言を行ったことや、トランプ氏が太陽光パネルなどについてセーフガードを発動させ、貿易摩擦に対する懸念が広まったことでドル安が進行。第4週、春節を控えて、中国筋の売買が下火になる中、ドル安が急伸。ドル安によるジリ高展開が続くも、円建てアルミ価格では円高が強く働きしばらくは、横ばいの値動きとなるか。当面は\$2,240前後での展開を予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年1月積 2,343.00～2,348.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年1月積 274.40～275.00 円/kg
- ・NSP 2017年11月 291.0 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年1月～3月 300.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'17年11月	'17年12月	'16年12月
月生産	*2,281.0	*2,368.0	2,321.0
平均日産	*76.0	76.4	74.9

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

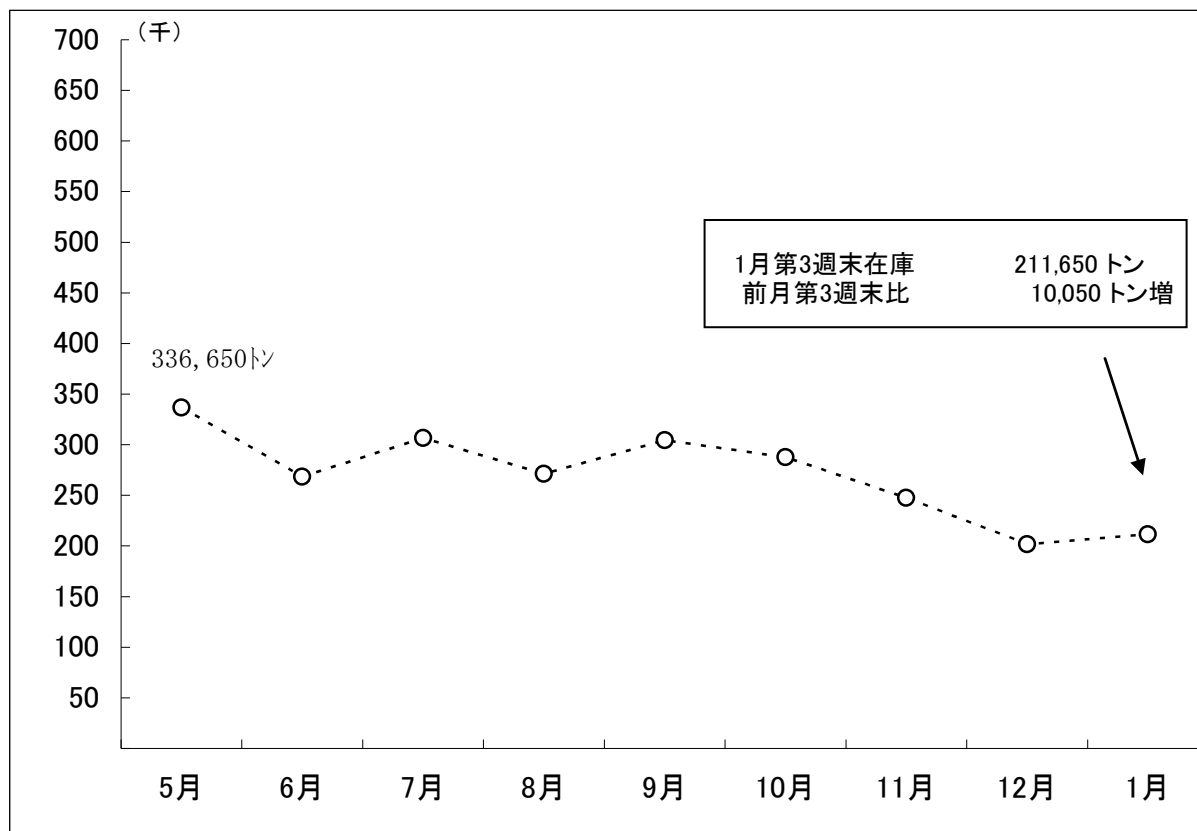
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2016年9月	2017年10月	増減	2016年10月	増減
横浜	135,200	119,100	-16,100	137,800	-18,700
名古屋	125,700	105,600	-20,100	125,400	-19,800
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	275,900	239,700	-36,200	278,200	-38,500

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・ 30年1月19日現在 213,427 S T 前月比 2,530 S T増

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 29年12月末 95,038 トン 前月比 4,159 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 29年11月確報 71,149 トン
・ 29年12月速報 66,407 トン 前月比 93.1 %

◎ 電線出荷実績

・ 29年12月速報 57,500 トン 前月比 91.0 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 29年 11月	板 類	104,440 トン	
	押 出 類	70,015 トン	
		<hr/>	
		174,455 トン	前月比 96.7 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。